



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 2 回目研修)

私の授業実践 ⑳ ～宇城市立当尾小学校 馬場 郁子 先生～

6 年 単元名「My Future, My Dream」

○中心となる領域別目標 「聞くこと」(ウ) 「話すこと〔発表〕」(ウ)

○単元を通じた学習課題

中学校で仲良くなるために、豊福小学校の友達に自分の将来の夢や中学校で楽しみなことや頑張りたいことを伝えよう。

○本時の目標 (3/9)

中学校で入りたい部活動とその理由について、友達と伝え合うことができる。

コミュニケーションを通して表現の意味や働きを体験的に理解させる

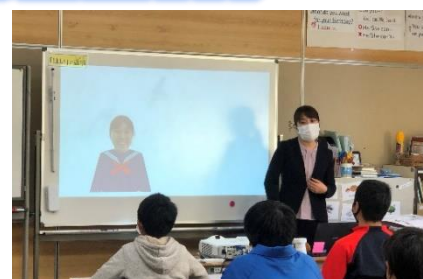
本時の言語活動は、「中学校で入りたい部活動とその理由」について、相手を替えながらペアで伝え合うという活動でした。注目したいのは中間指導での馬場先生と子供たちのやり取りです。ある児童の「吹奏楽部に入りたい理由」を取り上げられ、「Aさんは、吹奏楽をやったことはないんだね。でも、この前の中学校説明会で吹奏楽部を見学して楽しそうと思ったんだよね。それでは、『見て楽しそう』っていう時はどう言えばよかったかな？」

先生の質問に、子供たちから「Looks fun!」という答えが返ってきました。更に、「それじゃ、先輩の話を聞いて楽しそうって言いたいときは？」との問いに、すぐさま「Sounds fun!」と返ってきました。実は、これらの表現は使用教科書で扱われているものではないのですが、その後の言語活動では、多くの子供たちが、自分の気持ちを伝える際に活用することができていました。

馬場先生のお話によると、前単元の「行きたい国の紹介」で、見たことも食べたこともないのに「It's delicious.」「It's fun.」などと伝えている子供たちを見て、より適切な表現を身に付けさせたいと思ったとのこと。そこで、「look」や「sound」の表現を指導されたとのことでした。

今回の言語の使用場面は、この行きたい国を紹介した時と同様に、「見たり、聞いたりしたことを伝え合う」という場面だったため、子供たちは、この時の学びを思い出し、活用できていたと思われます。

馬場先生の授業やお話からは、子供たちの「こう言いたい」という思いを大切に、コミュニケーションを通して表現の意味や働きを体験的に理解させていく指導を丁寧かつ継続的にされていることが分かります。また、自分の考えや気持ちを伝える上で効果的な表現については、児童の実態に応じて柔軟に取り入れていく姿勢も大変参考になるものです。そして、このような授業は、指導者自身が、外国語の授業で身に付けさせたい資質・能力について明確な目標を持っているからこそ実現できるものです。



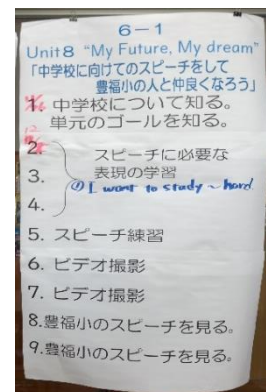
デモンストレーションの様子

単元を通して児童自身の学習改善に生かす ICT の効果的活用

今回の単元のゴールについて、馬場先生は、単元導入時に子供たちと話し合い、「中学校に向けてのスピーチをして、豊福小の人と仲良くなろう」と設定しました。また、単元終末には、中学校で一緒になる豊福小学校の 6 年生に向けて、各自、将来の夢や中学校生活等について発表動画を撮影するという活動を位置付けられました。

この単元のゴールに向けて、毎時間、活動の終末に学習内容を基に発表動画を各自のタブレットで撮影することを実践されました。本時の終末にも、中学校で入りたい部活動について、前時までに学習したことも含めて発表動画を撮影する時間を設定されていました。

発表動画を撮影するメリットとして、客観的に発表の様子を確認できるため、自己の課題が明確になり、個々の課題に応じた学びにつながることで、また、動画を蓄積していくことで、自己の学びの深まりを実感し、達成感や学習意欲を高めることなどが期待できます。指導者にとっても、個々の子供たちの学びの過程や状況を確認でき、指導改善を図るうえで大変効果的です。各学校においても、言語活動や評価場面における 1 人 1 台タブレット端末の効果的活用について、ぜひ実践をお願いします。



単元計画を掲示